

「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声を取りあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきつかなるような紙面づくりにかけています。
- 今までのことそしてこれからのこと、いっしょに考えていきたいと思います。

なにわ 路情

こちら路上医療相談室

第5回 皮心のお手入れをお忘れなく！

すこしやすいい気候となりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？
今回は、皮ふの手入れスキンケアについてです。
お風呂やシャワーを気軽に利用できるない野宿生活の場合、毎日のスキ
ンケアに十分に気を配
る必要があります。

「スキンケアの大切さ」

野宿生活者の中には、体を毎日ふいて清潔せいけつにされている方もいる一方で、スキンケアに全く気を配っておられない方もおられます。とりわけ不潔（ふけつ）になりやすい足先に水虫や小さな傷がある方もみうけられます。こういった状態で放っておくと、時には命にかかわる危険な状態にまで至ることもありますから注意が必要です。

に守られていて、ばい菌（病原体）が身体の中に進入することを防いでいますが、足先小さな傷や水虫があると、ここからばい菌が入り込みます。足先が痛みをとまなつてはれあがつて熱を持つていたり、薄赤色に変化している場合は大変危険な状態ですのですぐに救急車を呼んでください。適切な治療を受けなければ、ばい菌が体中に回つて命にかかわります。特に糖尿病のひとや高血圧などで動脈硬化が進んでいる人、アルコールを多飲している人などは、足先の血のめぐりや感覚が悪くなつていてますので注意が必要です。

「簡単にできるスキンケア」

スキンケアの第一歩は皮ふを清潔（せいきつ）に保つことです。人間の

意が必要です。

スキンケアの第一歩は
皮ふを清潔せいけつ
に保つことです。人間の

皮ふは手入れをせずに放っておくと垢(あか)がたまってきます。垢(あか)を放っておくと、そこにはい菌が繁殖(はんしよく)します。首(くび)まわり股間(こかん)、足先(あし)など垢(あか)がたまりやすい箇所(か所)を中心に、できれば毎日(まいにち)手入れをしてやる必要があります。

水(みづ)でぬらしたタオルでふくだけでも効果(こうか)がありますが、垢(あか)をおとすためには石けんを使う(つかう)のがもっとも効果(こうか)的です。石けんには皮ふについたばい菌(ばいきん)を殺(ころ)してくれる働き(はたらき)もあります。ただし、石けんの使用(しよ)をあまりとこかえって皮ふのトラブル(たふらぶる)のもととなります。石けんを使用(しよ)するときは、①石けん成分(ぶんぶん)を皮ふ表面(ひふ せんめん)に残(のこ)さないように洗い流(なが)す、②たわしなどでこしこしとこすりすぎない、③皮ふにただれがあつて石けん

わしなどでごしごしと
こすりすぎない、③皮ふ
にただれがあつて石け

カマヤンとハ起さん

アキカヤ
ダシボール
うまいな

民まつり

あき
はら
さ

あき
はら
さ

んがしみるような場合は使用しない、などの注意が必要です。

せっかく皮ふの汚れをおとしめて、汚れたままの下着や靴下をはいては元の木阿弥もくあみですから、下着や靴下は定期的にかえるようにしてください。

「足浴(そくよく)のすすめ」

足先のスキンケアは特に重要です。足先は汚れやすい小さな傷も生じやすい箇所です。一日中靴をはいて生活する場合は水虫もよくみられます。日常生活の中でできる足のスキンケアとしては、①毎日、足をよく観察すること、②足と指の間をよく洗い、よく乾燥させること、③きつすぎる靴は避けて、時には靴をぬいで乾燥かんなそうさせること、などがあります。

特におすすめしたいのが「足浴 せくよく」です。ハケツや洗面器などにぬるま湯をはって10分程度足をつけます。指の間などをタオルなどで軽くなでてあげるのもいいでしょう。足浴によって、足先を清潔せいけつに保つと同時に、血行をうながすことにもなります。

「火傷(やけど)になったら」

ほう)が生じてくる場合は消毒などの治療が必要で、火傷のあとからはい菌が進入して大事に至ることもあり、また「火傷くらいで」と遠慮せずに、救急車を呼んでください。なお、水ほうは傷を保護しておくので勝手に破らないようにしてください。

夜間には冷え込む日もあるかと思えます。みなさん風邪などをひかないよう気をつけてください。

もあるかと思います。みなさん風邪などをひかないよう気をつけてください。

●編集後記

なにわ路情」も今回で4号目となりましたが、今後も継続した発行ができるよう、ジャンズで有名な「イーバイ・ストラウス財団」から本紙発行のための助成金を頂きましたこれも本紙を受け取って下さる方々のおかげです。本当にありがとうございます。

これから皆さんに喜んで頂ける紙面づくりに頑張りますのでよろしくお願いいたします。

ボランティアで公園などで配布していただけのご希望がございましたら、編集局までお知らせください。送料は編集局負担でお送りいたします。

NPOってなに？ホームレス支援って？？

こんなNPOってなに?

数年前、巡回相談員として市内各所で面談を行っていた頃、巡回相談員」と称する男女が生活保護の受給を手伝うと近づき怪しげな場所に連れていかれ、不審な質問をされて不快感を持ったという野宿者たちに出会ったことがあった。また、病院に

無料入院させ僅かな日用品代を渡す一方、病院側は濡れ手で粟の診療報酬を得ているらしいという情報である

ところで今夏、マスコミで立て続けにこれらの問題がクロージアップされていたことをご存知だろうか。

都市の病院に入院し、数ヶ月後僅かな金を渡されて大阪に戻ってきた野宿者もいた。この件に關し私たちが巡回相談員が野宿者から問いただされ、疑われたところまであった。このまゝ福士

／28朝日 野宿者無料入院
1年で100人移送 6／28朝日
これは、野宿者を広島県内の複
数の病院に無料入院させ、日用
品代として毎月5千円を支給し
診療報酬を稼いでいたものだが

関係者と称して接近してくるケースもあると聞いた。巡回相談や福祉事務所では生活保護や医療相談を受けるケースはあるが特定施設の経営や事業をすることはなく、また保護費受給の勧誘などをするのではなく、勿論地方病院などに移送することもない。

団体が関係していたという記事である。病院経営が悪く、空きベッドを埋めるためにNPO関係者が仲介役をとり、野宿者やドヤ暮らしの労働者に声をかけ回っていたそうである。

『宿賃し急増、劣悪施設も』(5朝日)、ホームレス支援NPO団体の「摩訶不思議」(8/3)

これらの多くは、社会福祉法第1章で定義される「生活保護法」・「社会福祉事業」などの制度を利用し、野宿者の支援といひながら生活保護費を当人からかすめとり、劣悪な部屋に多数を住まわせ、粗末な食事を与えて利益をえているというものであった。また、健康者を病院に

サントー毎日。

これも、野宿者の自立支援を名目に、生活保護を受けさせて、狭い部屋に複数世帯を同居させ粗末な食事で生活保護費をかすめている施設の紹介記事である中には人権とか福祉を名目にしてNPO法人を名乗るものもありこれらの業績、総収入はうなぎ

のぼりだと解説されている。本来、当人が受けるべき受益を名義利用し大半の生活費を吸い取られる、つまり利用される。この他季刊 Shelter Issues 18号の「第2種社会福祉事業」というエッセイでは、大阪市内でのトラブル事例という小見出しのなかで、生活保護の受給の前提は、働ける能力を十分生かす努力をしても、生計困難な状況にある」にも関わらず、或るNPO団体のあつてんで生活保護を受けた就労活動がふまじめな50人に対し、大阪市が就労指導指示書を渡したと報告しまた本人の意思に反して第三者が費用を預かるのは問題だ」という市のコメントも紹介している。

になる。本誌「なにわ路情」も、野宿生活に必要な情報を提供する目的で作られた小さなNPOの団体である。現在収入は皆無なので、寄付と無償ボランティアでまかなわれる。私たちのような小さなNPOから、たくさんのスタッフを抱える大きなNPOまで、社会的に公共性ある仕事をしている活動団体が多い。ところが、最近営利を目的に運営する違法団体が登場してきている。

わずかな金銭や甘言でだまされないことが大切だし、まずはいい話には乗らないこと、話を聞いても即断せず仲間に話す、支援者・支援団体がいれば相談する、最寄りの福祉事務所に確認する、路情」新聞に連絡する

ところでNPOについてひとこと。NPOとは非営利活動団体のことだ。社会的に重要な問題を解決していくことや、社会をよりよく変えていくことを目的に個人やグループが立ち上げていく法人組織である。98年3月「NPO法」が国会で成立し、同年

こと。その際相手の団体名、連絡先住所、担当者名を必ず聞いておくこと。いかがわしい団体もありNPOという名称にだまされることが肝要である。これらの団体の話に疑いを持たずに利用されることだけは絶対に避けてほしい。(さ)

任意団体としての活動であったものが、社会的に認知されたNPO法人」として活動できることになったのである。

もうけを目的とせず、個人や法人、団体の利益追求を事業にすることはできない。しかし事業収入を得ることはでき、それらの事業収入は、すべて社会公益資金に活用されることが前提



紙面

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | こんなNPにご注意! | 4 | こちら路上医療相談室 |
| 2 | 野宿からの巣立ちを助ける | 4 | 町ちゃんと八起さん あゆら潜 |
| 2 | 頑張ればなんとかなる | 4 | ●編集後記 |
| 3 | 「女おしゃべり会」スタート | | |

発行元
NPO元気百倍ネット
なにわ路情編集局

〒530-8090 大阪中央郵便局留
NPO元気百倍ネット
「なにわ路情編集局」係
tel 06-4397-9305
e-mail rojinfo@zap.att.ne.jp
<http://www.kamagasaki-forum.am/roj>

野宿からの巣立ちを助ける

大阪城公園内青テントの人材派遣村長 長嶺吉助さん（66歳）

森ノ宮駅から大阪城公園に入らずぐ左手に、長嶺さんのテントがある。大阪城公園で野宿生活を送る人たちにとつて、夜回りや炊き出し、福祉相談、就労斡旋などで頼りになる存在でありつづけて、もう11年。

野宿する人の気持ちは、野宿することでしかわからないと、自らテントに住み、私財を投じて生活支援や就労斡旋などをおこなってきた。

旅したり美食したりして、老後を楽に暮らしたいとは思ってません。公園で住んでいると、普通に老後を過ごしてただけでは得られないような生き様、とんでもない宝も転がっているんですよ。こんな生き方もあるのだというのをみんなに知ってもらいたいですね」

並外れた情熱をもった長嶺さんのお世話になって、大阪城公園から近辺のアパートやマンションに居を移した人はすでに、もう70人に達するそう。公園内にシエルターができ、ピーク時には700近くあったテントは半減。シエルターだけでな

備を着々と進めている人もいる。

しかし、野宿から生活保護にあがるのが以前よりは容易になったので、長嶺さんの意欲のある人が結局は生活保護であがつていくケースもあつて、このことに長嶺さんは少し割り切れないものを感じている。

おのれにきびしく、人にやさしく、そうして命をかけてきた」という長嶺さんは、精力的に就労開拓を行ってきた。兵庫県の農業就労、農家への住み込み、三重県での高速道路や河川敷での草刈作業、静岡のラーメン屋、香川の不動産屋、原発関連の仕事、大阪城内のテキヤなどなど、自立支援センターとの親交もあり、実効あるユニークな就労支援活動が続いている。ただ、せっかく就労しながらも再び舞い戻ってくる、あるいは音信不通になった人も少な



世評辛らつな長嶺さん

くない。人間は生かされているから、生きてるんです。誰かがしてくれるわけじゃないです。でも心が貧しいから他人にぶら下がつて生きる人が多すぎますよ」。

テント裏近くでは、空き缶や粗大ゴミ回収の老舗業者が、城公園で資源回収を始め、取材時にも50人ほどが利用し、1ト



裏の森で、空き缶粗大ゴミの回収も



ン以上のゴミが回収されていた。西成区や浪速区での収集量が減っている一方で、回収業者は大助かりしているという。長嶺さんテントの周囲も目が離せない。

頑張ればなんとかなる

自立支援センター退所者 大野 勝さん（30歳・仮名）

20歳の時に震災で両親を亡くした。私は成人式で帰郷していたため難をのがれた。それから一年半、いくつかのアルバイトを掛け持ちし、お金を貯めてお墓をたてた。その達成感からか就職もせず、ダラダラとアルバイトの生活を続けた。両親が新聞販売店の店長をしていたため、中学、高校の約七年間新聞配達の手伝いをしてきた経験を活かそうと、24才の時、新聞販売店に就職した。

しかし、2年ほど勤めた新聞販売店は倒産し、次に勤めた新聞販売店も倒産。当時住んでいた下宿を追い出され大阪城公園にたどり着き、そこで野宿生活を始めた。友達を頼ろうとも思ったが、そんな力づく悪いことはできず、手持ちのお金を切り崩しながら食いつないだ。野宿生活に入ってから1ヶ月半後、食月下旬頃、巡回相談員のYさんに声を掛けられ、そこで初め

てセンターの新しい生活が始まった。周り人のほとんどが一回り以上年上の方だったので最初は居心地が悪かった。それもやがて人見知りしない性格が手伝い、生活に慣れていった。

本当にいろいろな人がいたけれど、結構仲良くやっていけた。寝る所、食事、風呂まであつて感謝しながら生活しました。自分の家のようにセンターでリラックスして生活できた。私の場合は運良く入所して三週間後には、とりあえずという形でコンビニでのアルバイトに採用が決まった。

入所して間もなくは、アルバイトを掛け持ちして出来た貯金を足掛かりにして新聞屋への就職を果そうと考えていた。コンビニの仕事も慣れてきた頃、店長から「正社員やってみる気はないか？」と言われ、非常に悩んだが、新聞販売店への夢はあきらめ正社員となった。バイトとは違いすごく大変でした。

それから1ヵ月後の7月中旬、入所中に貯めたお金でマンションを借りた。順調に早く退所できたと思う。そして、新しい生活が始まった。センター在籍時より仕事が質も量も増え、部屋へ帰ってすぐ寝る生活が続いた。今は体もなれて楽しく生活できています。家事全般、お金のやりくりが今一番しんどいです。1人の気楽さもある反面、1人のさびしさっていうのもあるなあとつくづく思います。今の夢は、こ

の生活がずっと続くこと、彼女ができればなあと思っています。彼女がいればさびしさ消えちゃうしね。最後に私の体験談を読んでもセンターに入所したいと思った人、是非入所して下さい。プラスになるかマイナスになるかは自分しただけで、向上意欲と労働意欲がある人ならプラスになるはずですよ。センターの存在を知らない人はどのような施設なのか問い合わせて欲しいです。知って損は無いから……。

そしてセンター入所が決まっている人、がんばって下さい。私からはがんばれ！こしと言えませんが、やることさききつちりやうていればセンターの相談員も長い目で見てくれます。もっと一番大切なのは向上意欲ですが……。

がんばれ！それでは。



がんばれ！それでは。

女性同士が元気になる場をめざして

大阪の女性野宿者中心に「女のおしゃべり会」スタート

最近、野宿生活者の中に女性の姿を見かけるようになってきました。しかしまだ圧倒的多数は男性であり、中でも大阪では女性1・3％と東京の3％、F15年度実態調査より（）に比べても特にその割合が低く、ほとんどの女性が男性の間でひく

ナート助け合いながら野宿生活を送り、自立をを目指す女性たちが、月1回の気軽な女性のお茶会女のおしゃべり会を立ち上げました。中之島公園でテント生活を送っている女性たちと、大学で非常勤講師を務める嶋田ミカさんが、女性野

が集まり、お菓子やジュースをつまみながら初対面の人が多いにも関わらず、和気あいあいとした雰囲気が始まりました。ホームレス自立支援法に基づく国の基本方針への意見や参加者のかえりる悩みをみんなで考えました。

野宿生活を送る女性は、アルミ缶集めなどの仕事だけで自活するのは厳しく、安全のためにも男性パートナーと暮らす人も少なくありません。その男性が病気や事故などで収入が途絶えたとき、生計をどうしていけばいいのか……などの悩みが出されました。

8月に同公園内のバラの広場で開催された第2回会合では、今後の会のあり方や男性の野宿生活者との関係のあり方が話題になりました。これらの問題に対して、すぐに直接的な解決策が出たわけではありませんが、女性が集まって話し合うことで、自分だけがしんどいのではないことを発見し、勇気づけられました。



っそり生活しています。行政の施策においても野宿生活者＝男性」という前提があるため、本来の野宿者対策ではない婦人保護の枠組みで何とか対応しているのが実情です。

しかし、そんな中でも女性同士あるいはパート

宿者が悩みや情報を交換できる場をつくらう」と意気投合したことがきっかけで始まりました。野宿者や支援者という枠を超えて、女同士が平たい関係でつながろうという試みでもあります。

第1回は7月18日、同公園中央公会堂前に9名